

償却資産課税事務における eLTAX の活用について ～電子データを紙に閉じ込めない活用法～

さいたま市

都市戦略本部未来都市推進部 主事

直井 杏子 氏

財政局南部市税事務所資産課税課 主事

鈴木 大翔 氏

財政局税務部税制課 主査

宮内 将行 氏



第28回 固定資産評価研究大会 償却資産課税事務におけるeLTAXの活用について

～電子データを紙に閉じ込めない活用法～

さいたま市

都市戦略本部 未来都市推進部

(前 財政局南部市税事務所 資産課税課)

主事 直井 杏子

財政局 南部市税事務所 資産課税課

主事 鈴木 大翔

財政局 税務部 税制課

主査 宮内 将行



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

都市戦略本部 未来都市推進部 主事 直井 杏子





(1) さいたま市について

- ・ 埼玉県南東部に位置する県庁所在地
- ・ 平成13年 浦和市・大宮市・与野市の3市合併により誕生
- ・ 平成15年 全国で13番目の政令指定都市（平成17年旧岩槻市合併）
- ・ 人口 1,354,430 人（R7.8.1現在）

市町村別令和5年中人口増加数全国4位！

- ・ 交通アクセスの良さ 「東日本の玄関口 大宮」
商業地…大宮駅近辺の繁華街、さいたまスーパーアリーナ
都内に通勤・通学する人々のベッドタウン



浦和レッズ・大宮アルディージャの本拠地でもあります！



3



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(2) さいたま市の償却資産の課税業務について

課税担当職員	11.5人（うち課税実務担当9人）
納税義務者数	36,065人（うち免税点超：16,398人）
課税標準額	742,392,609,000円
税額	10,387,177,000円

当初賦課の時期（1月～4月）は会計年度任用職員（臨時職員）を12～13人任用



- ・ 当初納税通知書発送時期は、5月（R7は5月1日発送）
- ・ 行政区（全10区）ごとに申告し、免税点の判定をしています。

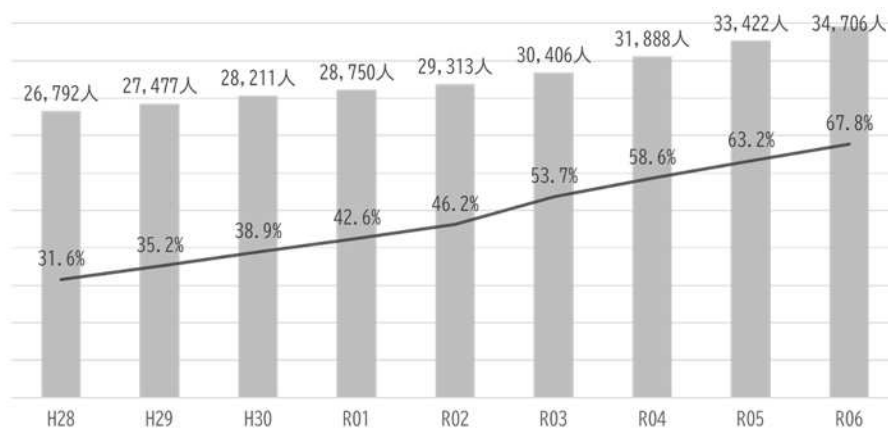


4



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(3) さいたま市の電子化率の推移



※R3より申告案内(免税点)はがき導入
 R3：15万
 R4：50万
 R5：100万
 R6：140万

電子（eLTAXによる）申告の割合は年々増加しています！

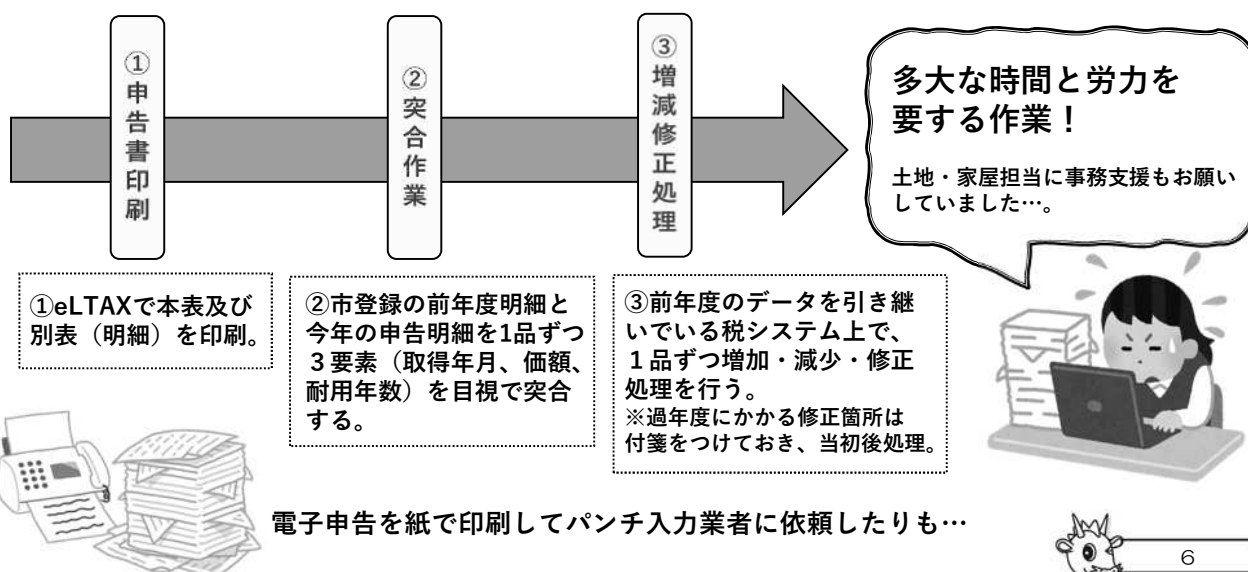


5



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(4) ツール導入前 電子申告（明細登録）の処理の流れ



6



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(5) 電子申告の処理の現状整理（ツール導入前）

当時よりeLTAX→税システムに一括で取込みする仕組み自体はありましたが、明細データの取込みには利用せず、前年度データと突合したうえで引き継いだ前年度データを増加・減少・修正処理していました。

- ・取込み前にeLTAXのIDと税システムの宛名番号との紐づけ作業をする必要がある。
- ・そのまま明細の取り込みができない申告データが多数ある。
（区相違申告、申告内容の誤り（空欄、耐用年数1年、申告対象外資産等））
- ・申告漏れや3要素（特に課税標準額に影響のある耐用年数・取得年月）変更の把握が難しい。



7



1. 改善前の事務フローとデータ活用への課題

(6) 課題解決に向けて

- ・申告の明細データの必要な資産のみ、取込みができるようなもの
- ・eLTAXのIDと税システムの宛名番号との紐づけ作業ができるもの（IDの変更にも対応できるもの）
- ・前年の明細データと今年の明細データの突合作業を楽にするもの



8



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

財政局 南部市税事務所 資産課税課 主事 鈴木 大翔



9



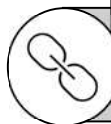
2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(1)導入したツールについての概要



①データ変換ツール

- eLTAXから抽出したデータを税システムに取込可能な形に変換するツール



②利用者ID紐づけツール

- 利用者IDと市のシステム管理番号を紐づけるためのツール



③資産突合ツール

- 事業者の申告資産と市の登録資産を自動で突合するツール

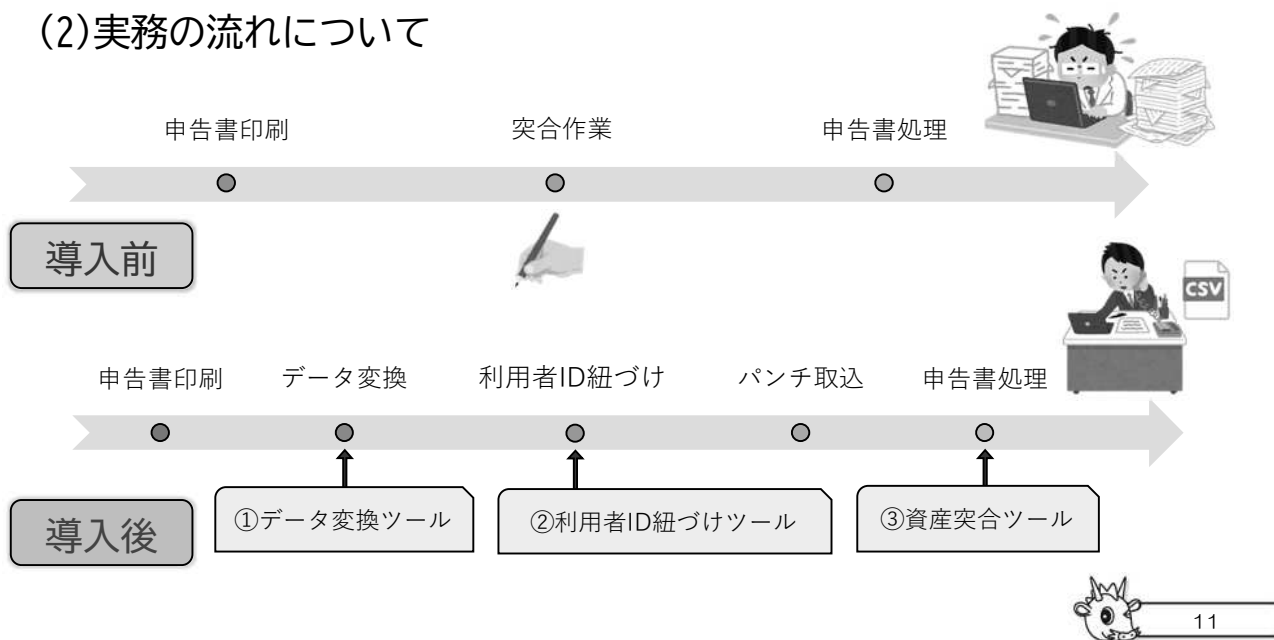


10



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(2)実務の流れについて



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(3)データ変換

1.使用するツール

①データ変換ツール



2.使用するデータ

eLTAXデータ（申告・明細情報）

税EUCデータ（申告情報）



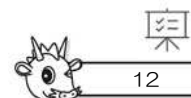
3.業務内容

1. 必要なデータのみ抽出
 2. パンチデータとして出力
 - + 「eLTAX確認シート」作成
 - + 「A～Fへ仕分け」
- ※+の部分は別スライドで説明します。



4.導入効果

データ取込活用促進
入力時間削減
正確な情報登録



12



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(4) 利用者ID紐づけ

1. 使用するツール

②利用者ID紐づけツール



2. 使用するデータ

eLTAXデータ（申告情報）

ID紐づけ済リスト



3. 業務内容

1. 上記2つのデータを照合

2. 紐づけ未のみを表示

3. 紐づけ作業

4. 税システムへデータ取り込み



4. 導入効果

紐づけ作業効率化

全てのデータを取り込み可能



13



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(5) 申告書処理

1. 使用するツール

③資産突合ツール



2. 使用するデータ

eLTAXデータ（明細情報）

税EUCデータ（前年の明細情報）



3. 業務内容

1. 2つの明細の以下の要素を突合

「数量」「取得年月」「取得価額」「耐用年数」

2. 一致したものは色づけ

3. 一致しなかった資産を職員が確認



4. 導入効果

作業時間の大幅な削減

減少資産の特定

明細情報変更資産の特定

申告もれ資産の特定

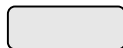


14



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(6)eLTAX確認シート



…申告書の情報



…税システムの情報

相手の申告と市の登録が
比較できるので、
変更があったところが見つけやすい！



2025 年度

利用者ID 所有者コード
利用者ID 税システムコード

A

申告書の住所・氏名

税システムの住所・氏名

	前年度取得額合計	前年取得	差額	前年中減少	前年中取得	パンチ送信対象
1 構築物	税システムの前年	申告書の前年	差分	申告書の減少額	申告書の増加額	取得年が昨年の資産合計額
2 機械及び装置						
3 船舶						
4 航空機						
5 車両及び運搬具						
6 工具、器具及び備品						
7 合計						

備考 申告書の備考



15



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(7) A～Fの仕分け

仕分け									内容	判定	担当	難易度
資産	なし								資産なし	A	RPA	易
	あり	明細登録	なし						電算申告 (サマリ入力)	B	事務支援 会計年度任用職員	
	あり		あり	前年前ずれ	なし	減少	なし	増加	なし	資産増減なし		C
	あり		あり		なし		なし		あり	増加のみ	D	
	あり		あり		なし	あり			減少あり	E	償却資産担当職員	
	あり		あり		あり				前年前ずれあり	F		難



16



2. 導入したツールと改善後の事務フロー

(8) 導入した結果まとめ

- ① データ活用により正確な作業と効率化を実現。
- ② 突合機能による大幅な作業時間の削減を実現。
- ③ eLTAX確認シートやA～F仕分けにより作業効率化を実現。

データ活用は業務を楽にするだけでなく、適正課税にも繋がる！



17



3. ツール導入の経緯と今後の展望

財政局 税務部 税制課 主査 宮内 将行



18



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(1) ツール導入の経緯

固定資産税に関する経歴

平成25年 4月 ～ 平成28年 9月 中央区役所 課税課 資産税係

平成28年10月 ～ 令和 2年 3月 財政局 固定資産税課 家屋・償却資産係

令和 5年 4月 ～ 令和 7年 3月 財政局 固定資産税課 家屋・償却資産係

※ 家屋担当 通算9年

私は償却資産の担当ではありません。

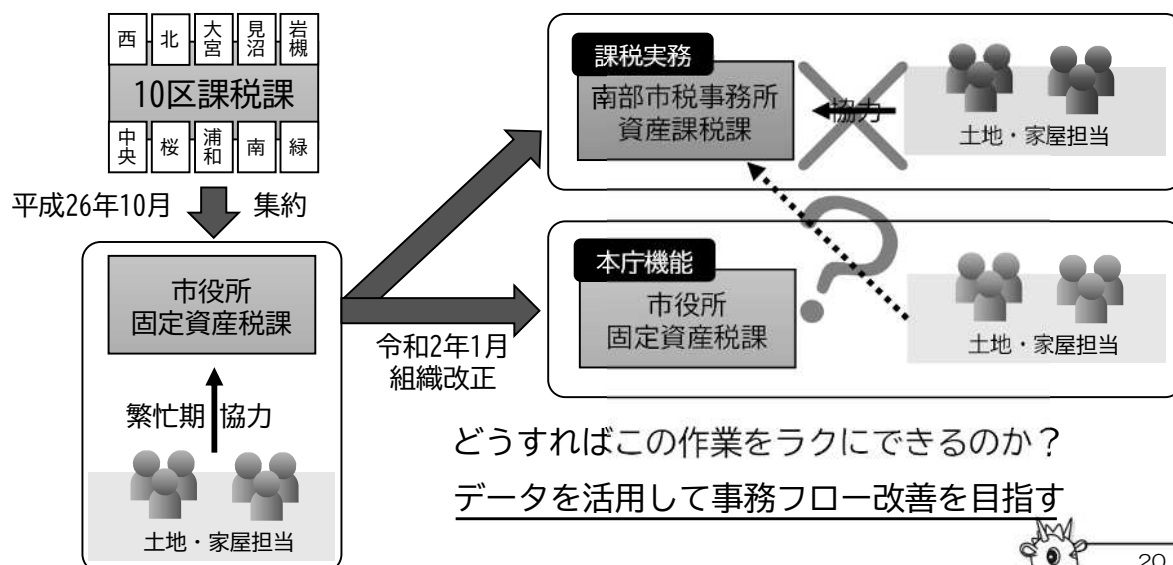


19



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(2) 償却資産担当の変遷

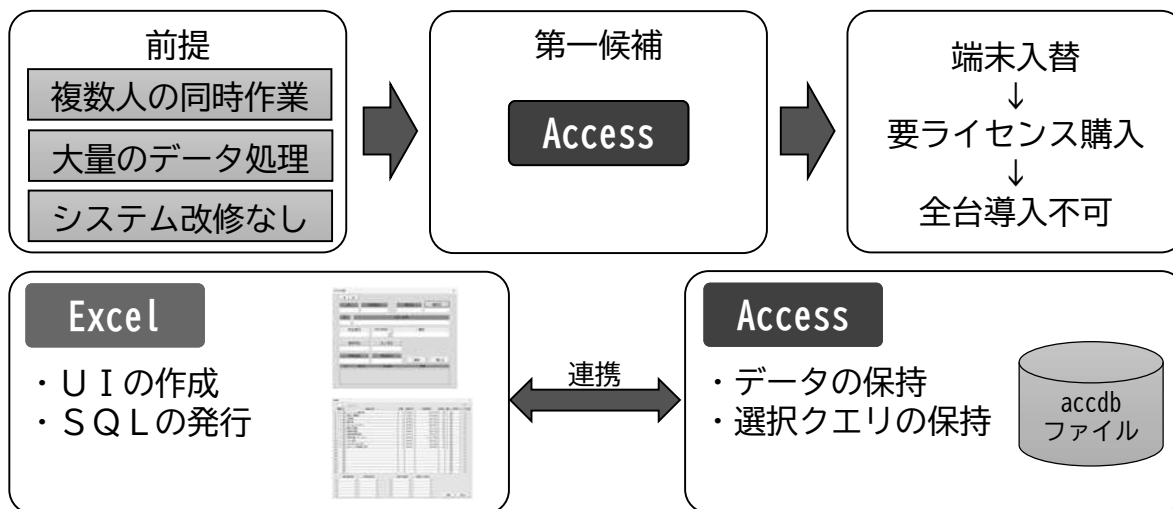


20



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(3) ツールの構成



コストをかけずに複数人同時作業にも耐えうる仕組みを実現

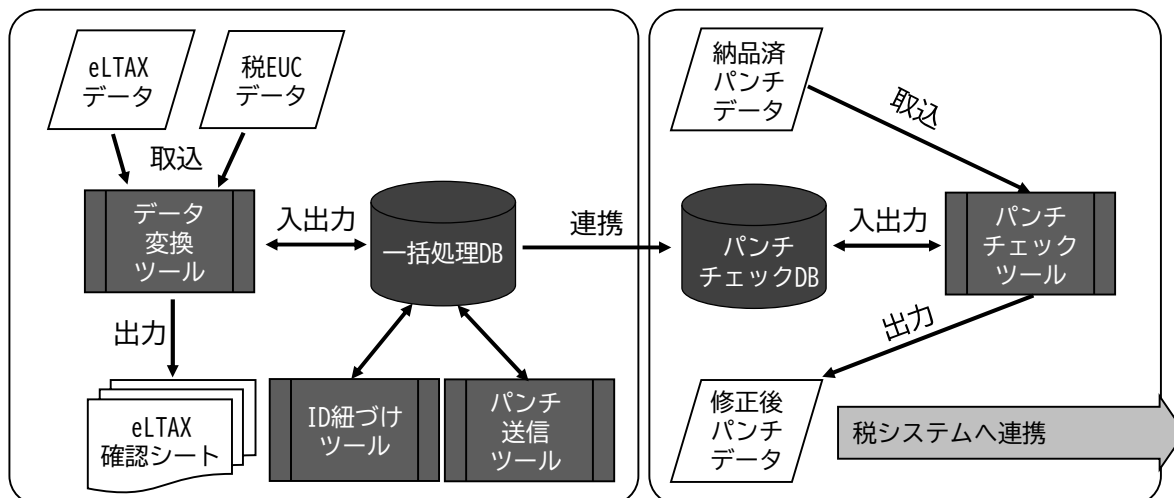


21



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(4) ツール間の関連



eLTAXの申告データをデータのまま活用することが可能に



22



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(5) 当初の想定と副次的な効果

データ連携できない理由

- ・一部の明細のみを連携できない
- ・前年度との整合性が保てない

対応策

- ・前年度データと比較
- ・取込可のものをパンチデータ化

期待された効果

- ・手入力の減少
- ・パンチ委託の減少

- ・eLTAX確認シートの導入
確認・事務振り分けの省力化

- ・減少資産の把握
パンチデータ化

- ・前年以前の異動把握
適正な課税

eLTAXの申告データを紙に印刷
⇒データ活用の道を閉ざしていた
データを紙に閉じ込めないことで
効率化の可能性が広がった



23



3. ツール導入の経緯と今後の展望

(6) 今後の展望

ツール導入から5年経過

eLTAX申告の
割合増加

取り扱い
データ増加

税システム
標準化

データ
レイアウト
変更

Excel

Access

- ・今後もこの構成で問題ないか
- ・レイアウト変更に対応できるか
- ・さらなる効率化はできないか

- ・RPAとの連携強化
- ・ツール群をまとめて再設計

今後も安定した運用を目指す



24